

科目名称	基礎看護技術Ⅲ(診療に伴う技術)	学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	30
担当教員	村上 裕紀	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

診察・検査・治療・処置における基礎看護技術を科学的根拠に基づき、確かつ安全・安楽に提供できるようになるために、診療に伴う各基礎看護技術提供に関連する既習の知識を想起し、対象に応じた援助方法を学ぶ。

【2】学習目標

1. 診察・検査・治療・処置について原理・原則に基づいた基本的援助方法および看護師の役割を説明できる。
2. 診察・検査・治療・処置における対象者の身体的侵襲、精神的影響について説明できる。
3. 1 および 2 に基づき、事例に応じた皮下注射・筋肉内注射・静脈血採血・点滴静脈注射(輸液ポンプ含む)・直腸内与薬・包帯法について医療安全を意識しながら実施でき、今後の看護ケアに活かせるよう振り返り考察できる。
4. 看護技術のエビデンスは、日々進歩し続けていることを理解し、学び続けることの必要性を理解できる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- ☐ 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- ☒ 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- ☒ 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- ☒ 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- ☐ 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- ☐ 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- ☒ 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	苦痛の緩和・安楽確保	講義
2	創傷管理・褥瘡予防	講義
3	包帯法	演習
4	与薬の援助	講義・DVD
5	注射法	講義・DVD
6	注射法	講義・DVD
7	輸血の援助	講義・DVD
8	検体検査	講義
9	生体検査	講義
10	事例に応じた看護技術(直腸内与薬、皮下注射、筋肉内注射)	演習
11		
12	事例に応じた看護技術(静脈内採血、点滴静脈内注射、輸液管理)	演習
13		
14	検査・処置の介助	講義
15	筆記試験・まとめ	

【5】評価方法

科目評価は、①1～9、14:筆記試験 80%、②レポート課題 10%、③演習態度・課題内容 10%で総合的に評価する。

【6】教科書

任和子:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ(第18版) 医学書院 2025(電子版)

【7】参考書

授業内で提示する。

【8】受講生へのメッセージ

既習の基礎的看護技術の知識を確認しながら、対象に応じた日常生活の援助技術を学習しましょう。